

令和3年度 第2号

湖畔

北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

半年を過ぎて

園長 赤坂 秀彦

学園に着任し半年が過ぎました。あっという間に過ぎたという思いと、ずいぶん長い間ここで過ごしたような感触が混在しており、不思議な気持ちになっております。この原稿を書いている10月半ばでは、新型コロナウイルスの緊急事態措置も解除され、感染者数も10名前後となり一息をついているところですが、振り返ると、子どもたちの言動に一喜一憂しながら、さらに明らかな答えがみつからない、手探りでの感染防止対策に腐心した6ヶ月間でした。

感染拡大防止対策を受け、子どもたちの生活も大きく変わらざるを得ませんでした。無観客での運動会、買い物訓練といった外出行事の中止や修学旅行の期間短縮など、子どもたちが心待ちにしている行事の多くを変更・中止・縮小せざるを得ませんでした。

野球部活動も例に漏れず、大きく予定変更をせざるを得ませんでした。活動の目標としていた、東北・北海道及び全国少年野球大会は早々に中止が決定されました。そして、活動の締めくくりともなる大沼地区少年野球大会も、まん延防止対策と重なり中止せざるを得ませんでした。

こうした中、互いにおそろおそろだったとは思いますが、近隣の中学校野球部、函館児童相談所有志の方々との練習試合を数回行うことができ、さらに、大沼地区大会の代替として、教育長さんや校長先生をはじめとした七飯町の学校関係者の皆様のご理解、ご支援のもと七飯中学校野球部との交流試合を行うことができました。ご協力いただいた方々には改めてお礼申し上げます。

交流試合で子どもたちは善戦しました。序盤は五分に試合を進め、ピンチに陥った時もそこから大きく崩れることなく、諦めずに最後まで戦い抜きました。素人の私から見ても、野球らしい試合をしてくれたなと思います。個々の子どもたちもベストを尽くしていたように思います。監督やチームメイト、相手選手の動きや指示を意識しながら、仲間のエラーやミスをカバーしたり、相手の隙を突いて盗塁したりする姿には感動を覚えました。シーズンが終わるのがもったいない、保護者の皆様や関係者の皆様にも試合をお見せしたかった、そうした気持ちに子どもたちはさせてくれました。

湖畔が皆様の手元に届く頃には終わっているとは思いますが、11月6日には、学園祭を開催いたします。学園祭には、感染防止に努め、また、そのご協力を得ながら、保護者や一部の関係者の皆様をお招きしようと考えております。

子どもたちは、楽器や歌など出し物の練習にいそしんでおります。これまた、リズム感がすこぶるよい子どもや、楽器のあしらいがよい子どもなど、思いもよらない才能を示してくれる子どももおり、心密かに出し物に期待をしています。

感染者数が増えずに、お客様をお招きして、子どもたちが励ましや賞賛を受け（「声」援は遠慮していた）、安全に学園祭が進められていることを強く思いながら、体育館から響く、勢いのよい、太鼓や鉦、笛の音に包まれながら、原稿を、今綴っております。

<野球部>

福祉指導員 成田 健悟

「真剣に野球をやろう」

令和2年12月、当時の1、2年生の野球部新チーム結成時のミーティングで私が伝えた事です。3年生9名が抜け、7名でのスタートとなりました。新チームは野球経験者が少なく、在園期間が短い児童も多数おりチームとしてのレベルは高くありませんでした。そのようなチーム状況のなかで、技術的にも精神的にも求めるレベルを下げて野球の楽しさを伝えていくことも考えました。しかし私はチームに真剣さを求めました。子ども達はこれからの人生のなかで遊びの野球はいくらでも出来るのです。しかし真剣な野球は人生のなかで出来る場面が限られます。子どもの成長の場である大沼学園で野球に取り組むからには、より学ぶことが多い真剣な野球に取り組むべきだと思ったからです。練習ではとにかくこのことを口酸っぱく児童達に伝えながら、新チームが始動しました。



「惨敗を糧にして」

7月中旬に七飯中学校と練習試合を実施しました。七飯中学校の巧みな戦術や鍛えられた守備に圧倒され、対して学園は声掛けが出来ていない、打球を簡単に後逸する等の粗末なプレーが立て続き2対0で惨敗しました。また試合後のグラウンド整備も行動が遅く疎かなものでした。反省会では今の野球では、「真剣さ」が全く見えなかったことを児童達に伝えました。児童達の中には悔しそうな表情を浮かべている児童もあり、チームとしてもこの惨敗から少しずつ変わっていったように感じます。

9月に予定していた大沼地区少年野球大会は新型コロナウイルスの影響により中止となりましたが、交流試合として七飯中学校と再び対戦する機会を頂きました。1回表の守備、遊撃手のファインプレーにより無失点に抑えます。その後も両チーム無得点のまま試合が進みます。3回裏に七飯中学校に1点を先制されますが、4回表に4番打者、5番打者が連打、すかさず追いつきます。4回表に再び1点を取られますが、4回裏に3番打者の長打と積極的な走塁が功を奏し再び追いつきます。その後は七飯中学校の攻撃に押され追加点を取られますが、投手が粘り強く投げ、捕手が体を張って止め、野手が大きな声を出して良い雰囲気を作り、大量失点はしませんでした。結果として5対2で敗戦しましたが、試合終了後のグラウンド整備も前回と違ってテキパキと取り組んでおり、児童達の成長を感じました。児童達には野球部の活動をとおして「真剣に取り組むことの大切さ」を少しは伝えることが出来たかなと思います。



「来年度こそは・・・」

ただ、野球はやはり甘いものではありません。七飯中学校との交流試合も善戦はしましたが勝利することも出来ませんでした。来年度こそはより真剣に野球に取り組んで、勝利を目指して頑張りたいと思います。皆様も引き続き大沼学園野球部の応援をよろしくお願いします。

僕が野球を始めたのは、中学2年生の冬です。そのころは野球に興味がなく、なんとなく野球をやっていました。ところが5月、監督からピッチャーをやらせたいという話があり、自分に大きな目標ができた気がして、やる気ができました。そして仲の良い同級生とバッテリーを組みたいからキャッチャーになってほしいことを伝えました。それから一緒にルールや投球法を覚えていきました。

最初の練習試合では、ボロ負けですごい悔しかったけど、今の自分に足りないものを知れたので、この試合を糧にしようと思いました。それから練習が楽しくなり、練習に励むことができました。

次の試合では完封負けでした。悔しくて、悔しくて、クラブの時間後も寮でも練習を重ねました。練習を重ねましたが、キャッチボールをする度に肩に痛みが走るようになりました。「これはまずい」と思い、1週間に1回ほど休む機会もありました。

最後の試合では、自分の調子がかかなり良かったです。試合は接戦になったけれど、結局負けてしまいました。しかし、前の試合と比べると、このチームがかかなり成長したことを実感できました。

ふと今の自分の野球を振り返ってみると、野球の見方ややる気が変わり始めたのは、自分がピッチャーを目指し始めてからだと思いました。理由はたぶん、自分が野球を始める前に「野球といえば」と聞かれたら、迷わずすぐに「ピッチャー」を思い浮かべるからだと思います。野球から離れるのは名残惜しいですが、受験生なので、メリハリをつけて野球から離れたいと思います。

シンヤ



僕は沼学園に来て初めて野球をしました。始めはルールも分からず、目標もなく、なんとなく野球をしていました。2ヶ月後くらいに同じ寮のS君に「バッテリー組みたいからキャッチャーやれよ」と言われて、キャッチャーになりたいと思いました。実際にやってみると思い通りにいかなくてくじけそうになったけど、みんなも頑張っていたので頑張れました。

最初の練習試合では、ボロボロの結果に終わり、自分の目標であった「体で止めること」ができず、メンタルがボロボロになりました。でも監督に「キャッチャーがダメになったらチーム全体が悪くなるぞ」と言われ、チームの仲間からの「キャッチャーがんば!」という言葉に助けられました。

それから試合や練習があり、沼地区の代わりに交流試合を行うことになりました。その試合はピッチャーも内野手も調子が良く、点の取り合いにもなり、とても面白い試合になりました。面白い試合だったので勝って終わりたかったけど、2対5で負けました。

僕が野球をやってうれしかったことは、仲の良い同級生とバッテリーを組めたことです。バッテリーを組むことを目標にしていたので、本当にうれしかったです。特に、試合でサインを決めて、三振を奪ったときは本当に嬉しかったです。今でも忘れられません。

来年は、同じ寮の2年生がキャッチャーをやりたいって言っているの、頑張ってたって欲しいと思っています。

ハヤト

最後の交流試合では、フェンス直撃の2ベースヒットを2本に1盗塁をすることができました。でも、どうせだったら、2盗塁でトリプル2がよかったです。最後の試合としては、よい形で終われたけど、2本ともあと少しでホームランだったので、悔しかったです。

シュウヤ



野球部に入ったときは、ルールもポジションも分からず、サードを守ってと言われたときは、何をすればいいか分かりませんでした。まずは体で止めるという動きをずっとやっていくうちにいつのまにかボールを体で止めることが出来ていて、自分でもびっくりしました。

野球部に入り、7月10日に初めての練習試合がありました。練習試合の相手は大野中でした。自分はそのとき守備位置などが分からず、指摘を受けながら自分の守っているポジションのサードを守りました。盗塁されたとき、タッチのし忘れがあり、アウトにならず悔しかったです。自分がバッター

のときは、監督が出すサインを見て行動しました。バットを振ったけど当たらず、次にバントのサインが出て、自分はバントができるのか心配だったけど、やってみるとバットに当たり、送りバントをすることができました。初めての試合ですることができたのが嬉しくて、今でも覚えています。

大沼地区少年野球大会がなくなって残念でしたが、その代わりに七飯中との交流試合がありました。今回はサードに結構球が飛んできて、しっかりと前回のことを反省して、守備ができてよかったです。バッターのときは、初めて試合でヒットを打つことができました。

野球部で成長したことは、練習をしているうちに、体で止めたり、フライ、強烈なゴロなども捕れるようになってきて、しっかりアウトを取れるようになったことです。自分でも驚きました。バッターのときは、最初は振っても当たらなかったけど、試合などをして、ピッチャーが投げたボールをよく見て判断することができて、打てるようになったことです。前まではヒットを打つことができなかったけど、今ではヒットを打てていてびっくりしました。

まだ来年もあるかもしれないので、守備やバッティングをしっかりと練習します。

ダイスケ

今年で自分は約3年間野球部をやってきました。最初の年は東北・北海道大会や大沼地区などがありました。最初の大会では、あまり活躍ができませんでした。守備も下手でバッティングも下手くそでした。それで自分は野球が向いていないなと思っていました。その次の年は最初の年よりすこしは上手くなりました。2年目は新型コロナウイルスの影響で試合がありませんでした。でも、練習試合がありました。1年目よりも上手になっているんだけど、まだ下手くそでした。3年目も2年目と同じで大会がなくなりました。今年是全国大会に行きたいと思っていたので、残念でした。3年間の野球部で学んだことは、みんなでやる楽しさや、下手くそでも毎日やることで上手になることです。

ツバサ





自分は5月18日から約4ヶ月間野球をやるようになりました。自分は初めて野球というものに触れました。野球を遊びでしかやったことのない自分が、本格的に野球をやるようになったときは、まず混乱しました。でも、頑張ってやらないといけないのでできるところまで頑張ろうと思いました。最初は体で止めることができなくて、しかもフライも捕れない自分でした。でも、先生や仲間の力を借りて、今では体で止める意識を持っています。練習すると、自分もびっくりするほど力が上がっていると思いました。これは周りの人の力だと思います。自分は野球が出来て、よかったと思います。来年は中心として頑張りたいと思います。

アツキ

自分は、ここに来て初めて野球というスポーツをしました。野球を始めた頃はバッティングも守備も上手いかず、自分は野球が下手なんだと諦めていました。でも、日々練習をするうちに、だんだんできることも増えていき、野球が楽しくなりました。それで野球が好きになりました。でも今年は、新型コロナウイルスのこともあり、沼地区の大会や東北野球大会がなくなってしまい、とても残念に思いました。自分はクラブじゃなくても、寮の余暇時間を使って野球をしていたのでとても悔しかったです。でも野球をして学んだことがいっぱいあります。それは物を大切にしないといけないこととコミュニケーションを少し取れるようになったことです。大会はなくなったけど、日々の練習は無駄じゃなかったと僕は思います。

マサト



9月11日に交流試合を行いました。自分のポジションはライトです。交流試合のときはライトの守備をやっていたのですが、ボールが飛んでこなかったです。バッターもやりましたが、打てなかったです。

キョウスケ

僕が来て1週間で練習試合でした。楽しかったです。ティーバッティングで練習をしていると、だんだん野球らしくなってきました。試合後に最後まで片付けをしたら、評価してもらい嬉しかったです。今はピッチャーになるために練習中です。

ユウキ



<小学生クラブ>

児童自立支援専門員 奥田 寛崇



このところ頻繁に、かつて私が小さな子どもだったころ、まだインターネットが生活の大半を占める前に、野山を天然の遊び場として縦横無尽に走り回っていたことを思い出します。今では子どもたちの遊ぶ場所・手段は膨れ上がり、ネットゲームや SNS などが跋扈していますが、私たち小学生クラブが興じるのは、どこか懐かしさを感じさせる「昔ながらの」遊びです。この春から秋にかけては、屋内・屋外問わずさまざまなスポーツや、かき氷づくり、デイキャンプ体験など、この大自然あふれる学園ならではの遊びを堪能しました。

そんなクラブ活動中、青々とした芝に子どもたちと寝転がっていると、改めて、この大自然の壮大さに

胸を打たれます。そして、こんな風に子どもたちが安全に過ごせる遊び場をつくり上げてくれている実科職員に感謝の念が湧いてきます。私たちの「遊び」という小さな営みの背景には、それを支える多くの大人たちがいるのです。いま私たちが笑いながら駆け回っている、この素晴らしい景観。しかし、もし誰も手を触れず、そのままにしていれば、いずれ荒れ果ててしまうことは自明です。いつも温かい誰かが丁寧に手入れをしてくれるから、その本来の美しさを発揮できている。その意味で、学園を彩る緑は、子どもたちが抱える困難の隠喩のように思われます。

私たちが直面する困難は、子どもたちの関係性に関わるものが大半です。子どもたちはまだ人との上手な関わり方を知りません。それは子ども同士だけではなく、大人に対しても同様です。態度を乱す前に言葉で相談してくれればいいのに…と思うこともありますが、それは大人本位の言い分だとすぐ気づかされます。「子どもの良き相談相手として、私たちに何ができるのか」。何気ない遊びの中で見せる、子どもたちの思いやりや優しい声かけを拾い上げたり、ぞんざいな関わり方に毅然と接したりすることが、少しずつ、彼ら本来の可能性を開かせているように感じます。そうやって、今後も子どもたちの“芽”を育てていきたいと考えています。

小学生クラブで楽しかったことは、缶蹴りと鬼ごっこです。缶蹴りは隠れたりすることが難しかったり、鬼になったら見つけにいくことと、缶を蹴るペース配分が難しかったです。鬼ごっこはすごく酸欠になりました。すごく疲れました。

最後にすごく楽しかったことは、しゃぼん玉です。洗濯のりと水と洗剤の割合がわからなくて、なかなかできなかったけど、最終的にはそれぞれ4:2:4の割合でしゃぼん玉ができました。とても良かったです。

カイト



中学三年生見学旅行

児童自立支援専門員 佐藤 秀介



今年度の見学旅行は、コロナ禍の影響もあり実施が危ぶまれましたが昨年度同様、分校さんの徹底した感染対策と行程の調整のおかげもあり無事実施することができました。今回の旅行では青森県と函館市内の観光が主でした。その中で、普段の学園生活ではできない体験を通して子どもたちの充実した表情や笑顔を見ることができました。

青森では浅虫水族館や三沢航空科学館の見学、SUP体験、函館市内では公会堂や元町散策など充実した内

容でした。それらを見学し、子どもたちがお互いに感想を話し合ったり、メモを取る姿があり、彼らにとってこの旅行を通し、何か得るものがあったのだとそう感じる旅行でした。

今回の見学旅行は、普段の学園生活にはない唯一無二の貴重な時間を過ごすことができたことと思います。子どもたちには、この修学旅行で得たものが何か一つでも、将来や進路に少しでも繋がってほしいと思います。また、この思い出が、彼らの将来や進路のために頑張ろうと思ってくれるきっかけの一つになれば嬉しい限りです。

最後に、今回の見学旅行を計画してくださった分校の先生方、臨機応変に対応してくださった引率の先生に感謝申し上げます。

8月27日に2泊3日の修学旅行に行ってきました。出発式を行うときは雨が降っていて、ちょっと残念な気持ちでバスに乗りました。

青森に着いて、はじめに「ねぶたの家ワラッセ」に行きました。お土産コーナーではみんなと一緒に色違いのシャープペンシルを買いました。今思えば、もう少し買っておくべきでした。

次に浅虫水族館に行きました。水族館では、イルカショーや色んな生き物を見ました。見たことがない生物もたくさんいました。

次の日の朝ご飯では、大きいホタテが出て、びっくりしました。それから三沢航空科学館に行きました。無重力空間を体験し、楽しかったです。航空科学館を出発し、今度は函館行きのフェリーに乗りました。甲板に出ると、かなり強い風が吹いていて、マスクが飛んでいきそうになりました。18時くらいにフェリーを降りると、函館のホテルに向かいました。夕食はバイキングでしたが、最初に寿司や刺身が出てきて、少し感動しました。

3日目は、午前中元町を散策しました。この日はとても暑くて、たまたま傘を持っていたため、日傘代わりに使いました。

修学旅行では、列車やホテルに忘れものがあったので、隅々まで確認することが大切だと感じました。



シンヤ

行事報告②



キャンプの様子です！
夕食のカレーを全員で
作りました！

小学校6年生の
見学旅行での1枚。
キーホルダー作りに
悪戦苦闘？



マラソン大会！
めざせ完走！

ご寄食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(令和3年7月～10月)

セブンイレブンジャパン 様
函館南更生保護女性会 様

東海林 学 様
米田 浩二 様

ふじの学園 坂本 徳廣 様
澄 マサノ 様

編集後記

新型コロナウイルスの影響を受けながらも、大沼学園の児童たちはそれに負けずに力強く、そして元気よく生活を送っています。大沼の紅葉もピークを過ぎ、肌寒く感じる一日が増えてきました。今年は夏から秋にかけて、キャンプやマラソン大会、修学旅行や野球の交流試合など、多くの行事を実施することが出来ました。行事の中では、普段の生活と比べ、一段と団結して取り組んでいる子どもも多く、表情も一層良いものです。また、その中で子どもの新たな良さを多く見つけ出すことができ、子ども達には大きな可能性があるのだと改めて感じさせられます。そういった子どもたちが輝ける機会をたくさん作れるよう、日々業務にあたっています。

最後になりますが、大沼学園を支えてくれている関係機関の皆様、地域の皆様、保護者の皆様には日頃からお世話になっております。ありがとうございます。今後も応援よろしくお願い致します。

児童自立支援専門員 高間 拓希



学 園 の 動 向

令和3年7月～10月

7月

- 5日 内田自立支援課長一時保護中の児童の面接調査のため室蘭児相訪問
- 7日 運営会議
本庁子ども子育て支援課・山田能揮主幹、関口聖人主事来園
- 8日 宿泊研修（～9日 分校 後期課程8年生）
職員会議
室蘭児相・土橋正幸児童福祉司面接調査のため来園
- 9日 カヌー体験学習（分校 前期課程5・6年生）
- 10日 野球部練習試合、家村昭矩元園長、大国伸夫元職員、秋葉陽子元晩翠寮寮母来園
- 12日 避難訓練
内田自立支援課長面接調査のため室蘭児相訪問
- 13日 室蘭児相苦小牧分室・田中美佐保児童福祉司、児童移送のため来園
旭川児相・平野有司子ども支援課長、西森里絵児童福祉司面接調査のため来園
- 14日 支援会議 給食会議
- 15日 薬物乱用防止教室（分校）
- 16日 札幌市児相・瀬川琴乃児童福祉司、西海谷誠児童心理司面接調査のため来園
- 19日 内科検診
不審者被害防止教室（分校）
- 21日 第1学期終業式（分校）
医学診断（加藤嘱託医）
内田自立支援課長、斉藤主査面接調査のため室蘭児相訪問
- 24日 野球部練習試合
- 25日 理髪
芝蘭寮園外活動（グリーンピア大沼）
- 26日 晩翠寮園外活動（グリーンピア大沼）
- 29日 キャンプ（～30日）

（7月 入所0名／退所0名）

8月

- 2日 夏期一時帰省開始
- 4日 室蘭児相・宮下靖司主幹、室蘭児相苦小牧分室・田中美佐保児童福祉司児童移送のため来園
- 11日 高橋一正元蛸雪寮寮長来園
岩見沢児相・豊田英範児童福祉司、富樫悦子児童福祉司児童移送のため来園
- 12日 内田自立支援課長、松山児童自立支援専門員面接調査のため札幌市児相訪問
- 13日 札幌市児相・瀬川琴乃児童福祉司、西海谷児童心理司児童移送のため来園
- 16日 第2学期始業式（分校）
内科検診
- 18日 運営会議 給食会議
医学診断（加藤嘱託医）
- 19日 職員会議
札幌市児相・瀬川琴乃児童福祉司、西海谷児童心理司面接調査のため来園
- 21日 野球部練習試合、家村昭矩元園長、大国伸夫元職員来園
- 23日 避難訓練
- 25日 修学旅行（～27日 後期課程9年生）
- 29日 理髪
- 30日 旭川児相・岡村修一児童福祉司、安田英広判定員児童移送のため来園

（8月 入所1名／退所0名）



9月

- 6日 内科検診
開校記念日（分校）
- 8日 運営会議
- 10日 岩見沢児相・豊田英範児童福祉司面
接調査のため来園
岩見沢児相・藤田靖児童福祉司、齊
藤公伸判定援助係長児童移送のため来
園
- 11日 野球部交流試合（大沼地区少年野球
大会は新型コロナウイルス感染症に
よる緊急事態宣言中のため中止）
- 15日 職員会議
給食会議
避難訓練
医学診断（加藤囑託医）
- 22日 支援会議
- 26日 理髪

（9月 入所1名／退所1名）

10月

- 1日 修学旅行（前期課程6年生 新型コ
ロナウイルス感染症の影響で1日の
みの実施）
- 6日 衣替え
- 13日 マラソン大会
- 14日 運営会議
- 18日 職員会議
内科検診
- 19日 北海道教育委員会・倉本博史教育長
視察のため来園
北海道教育庁総務政策局・荒川裕美
教育政策課長、同局総務課・佐藤基主
査、同庁渡島教育局・谷垣朗局長、同局
企画総務課・小笠原大総務係長随行
七飯町教育委員会・與田敏樹教育長
来園
- 20日 支援会議 医学診断（加藤囑託医）
中央児相・川俣英嗣主任児童福祉司
面接調査のため来園
- 21日 内田自立支援課長、佐藤淳哉福祉指
導員児童移送のため札幌市児相訪問
- 22日 札幌市児相・瀬川琴乃児童福祉司、
西海谷児童心理司面接調査のため来園
- 31日 理髪

（10月 入所1名／退所1名）

